

# 報告書

大工研報第 914 号

|      |              |                |
|------|--------------|----------------|
| 依頼者  | 所在地<br>または住所 | 大阪市生野区小路 1-2-5 |
|      | 企業名<br>または氏名 | 三星電機株式会社 様     |
| 依頼事項 | 菌数測定         |                |
|      |              |                |
| 試料   | OD           |                |
|      |              |                |

平成 8 年 8 月 27 日付第 1597 号で依頼のあった件について  
試験・分析・研究・測定・鑑定した結果次のとおり報告します。

## 結果

| 試験名          | 生菌数 (個/1ml)       |
|--------------|-------------------|
| 大腸菌          | 検出されず             |
| 大腸菌 (対照)     | $1.6 \times 10^4$ |
| 黄色ブドウ状菌      | 検出されず             |
| 黄色ブドウ状菌 (対照) | $8.4 \times 10^6$ |
| 黒カビ          | 検出されず             |
| 黒カビ (対照)     | $1.5 \times 10^4$ |

方法) 普通ブイヨン培地で培養した大腸菌 (*Escherichia coli*, IFO 3301) および黄色ブドウ状菌 (*Staphylococcus aureus* FDA209P) の生菌体 0.1ml あるいはポテトデキストロール寒天培地で生育した黒カビ (*Aspergillus niger* IF06341) の孢子 0.1ml を試料 (5ml) に接種した。室温に静置し 1 時間後の試料中に生存する生菌数あるいは孢子数を測定した。なお対照試験には試料の代わりに生理食塩水を用いた。

生菌数の測定は衛生試験法・注解 (1990) 微生物試験法 (4) 生菌数 (p. 148) によって行った。ただし細菌の培養には普通栄養寒天培地、黒カビの培養にはポテト・デキストロール寒天培地を用いた。

以上

平成 8 年 9 月 12 日

大阪市立工業研究所長

富永嘉男

